

# 東大山笠の祭礼幕新調

## 戸畑祇園 明治期の幕を復元

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産「戸畑祇園大山笠」の四つの大山笠のうち、東大山笠の祭

### きょう 飛幡八幡宮で公開



復元・新調された東大山笠の祭礼幕

て迎える今夏の祭りから使われる。

祭礼幕は屋間の幟（のぼり）の四方を巡らせる水引幕（長さ約8・6メートル）など4種類。背部にある丸い見送り幕（直径約1・6メートル）には、大黒天の像があらわれている。

戸畑区の飛幡八幡宮で11日、神事の後に関係者向けの披露会が開かれた。昨年まで使っていた幕に傷みが出てきたため、保管していた1899（明治32）年製の幕を基に、約3年かけて新調した。

新しい幕は12日午前10時〜午後4時、飛幡八幡宮で無料公開される。幕の新調は西、中原に続き3番目で、今年からは天籟寺でも始まる。【井上卓也】

# 戸畑祇園・東大山笠

## 「祭礼幕」56年ぶり新調

### きょう 一般公開

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産「戸畑祇園大山笠」（戸畑区）を構成する四つの山の一つで、今年の当番山を務める東大山笠は、山の台座を飾る「祭礼幕」を56年ぶりに新調した。1899（明治32）年に作成された二つ前の幕のデザインを復活させた。12日午前10時〜午後4時に同区浅生2丁目の飛幡八幡宮祇園会館で一般公開する。

祭礼幕は計7枚で構成。胴回りを囲む長さ約8メートルの「水引幕」には、豊臣秀吉



120年前に作られた祭礼幕（左奥）を復元新調した東大山笠の祭礼幕

による朝鮮出兵「文禄・慶長の役」に出陣する加藤清正と秀吉が描かれた。これまでは源頼朝などがデザインされた1963年作成の幕を使ってきたが、痛みが激しいことから3年前に新調を計画し、京都市の伝統工芸士らが手縫いで立派な幕が完成した」と感謝した。（木村知寛）